

第33回「ふれあいトーク」当日のやりとりコメント

【1】 学校給食におけるアレルギー対応について

食育の一環として、またアレルギーへの理解を深めるきっかけとして、次のことを実施できないか。

- ①学校給食について、年に1度だけでも、アレルギーのある子も含めて、みんなで同じ給食を食べられる日を設けることはできないか。また逆に、みんなでお弁当を作ってきて食べる日を設けることはできないか。
→竹園東小学校（つくば市）参照。
- ②小学生へのアレルギーに関する講習会を実施してほしい（自分たちが講師として話すことも可）。
- ③幼稚園や保育所の先生方も、アレルギーやその対処法等について、理解を深める機会を持ってほしい。
- ④子育て支援事業のプログラムの1つとして、アレルギーに関する講習会的なイベントも組み込んでもらえないか。

⇒【村長コメント】

アレルギーを持たない人たちの中に、（アレルギーなどの）ハンディのある人たちがどう溶け込んでいけるのが大切で、そのような環境を作っていかなければならないと思っている。担当課に伝え、検討する。

⇒【学校教育課コメント】

①について、つくば市では年2回、「みんなで食べる学校給食の日」として、食物アレルギー物質27品目や動物性食品不使用の献立による給食を実施しているとのことです。また、お弁当については、現在本村でも（学校行事に合わせて）“お弁当を持ってくる日”があります。食物アレルギーへの理解を深めるきっかけとして、どのような取り組みができるのか、今後、栄養教諭と共に検討します。

②について、中丸小学校や舟石川小学校ではすでに子供たちへの授業や、栄養教諭対象の研修会を実施しています。今後、2校以外の小学校においても、食物アレルギーに関する授業を実施できるよう調整中です。なお、平成29年度については、年間計画に食物アレルギーに関する授業を盛り込むこととし、実施する予定です。また、教職員を対象に、夏休みの職員研修の一つとして取り入れる予定です。

⇒【子育て支援課コメント】

③について、人事異動等で人が代わった際に、対応の質が低下することのないよう、アレルギーに関する勉強会を定期的で開催することとします。

④について、子育て支援事業へのアレルギーを知るプログラムの導入については、2月24日開催の公立子育て支援センター関係職員が集まる子育て支援会議での情報提供、支援事業への導入依頼を行いました。具体的にどのような形で実施するかについては、子育て支援課で調整します。

【2】 （仮称）「歴史と未来の交流館」について

交流館を建設して、「何をしたいのか」「そこまでの価値があるものなのか」疑問である。村民に知らされている情報が足りない。

また、現在予定されている場所は、わざわざ足を運ばないと行かない場所だと思うので、東海村産業・情報プラザ「iVil」を整理して、その一部を資料館的なスペースとして活用することはできないのか？

⇒【村長コメント】

交流館は、村の文化財を展示する「歴史資料館的な役割」と、「青少年センターの機能」を持ち合わせた複合施設として計画を進めている。

「iVil」は、観光や地域経済の活性化を図るための施設として既に活用している。現在の建設予定地は、周辺に文化施設が集まる場所として、それぞれ連携が図れる場所となっている。

コストを抑えながら、最大の効果が出せるように現在、設計を進めているところ。皆さんのご意見を反映できることは対応していきたいと思っている。

【3】 (仮称)「歴史と未来の交流館」について

交流館の必要性やコンセプトは何か？

「iVil」を活用することは考えなかったのか？

古いものを展示するだけのような“大人のため”の施設ではなく、“子どもたちのため”の施設にならなければ意味がない。

⇒ 【村長コメント】

歴史資料館と青少年センターの機能を持ち合わせた複合施設であり、「歴史」の分野では、歴史的な文化財等を取り扱う場として、「未来」の分野では、青少年活動の場として、また村の特徴である科学技術の分野等の情報を子どもたちに提供する場として、子どもたちをメインターゲットとした施設にしたいと考えている。

「iVil」は、観光や地域経済の活性化を図るための施設としてすでに活用している。現在の建設予定地は、周辺に文化施設が集まる場所として、それぞれ連携が図れる場所となっている。

※特筆事項がなかった方につきましては、掲載を割愛させていただきます。